

## 千葉市 P F I 事業審査委員会委員長コメント

本事業は、消費生活センター・計量検査所複合施設整備事業、少年自然の家（仮称）整備事業に続き、千葉市において３番目に導入された P F I 事業である。これら先行案件と同じく、本事業においても、多くの企業からの関心を受け、最終的には４グループから提案書を受けた。

各提案とも、施設の建設費及び運営費等によるライフサイクルコストは、市が直接実施する場合に比べ、市の財政負担額が大幅に縮減されているとともに、創意工夫による公共サービスの向上が図られており、各位の工夫及び努力に対し深く感謝する。

ただし、４グループのうち１グループについては、創意工夫の前提として充足しなければならない落札者決定基準に示した基礎審査項目を一部満たさない提案があり、このグループを P F I の制度に基づき失格と判断せざるを得なかったことは、大変残念であった。

このため、定量化審査は他の３グループを対象として、落札者決定基準に示す全ての評価項目について慎重な審査を行った。

なお、B グループの提案は建設費や年間事業運営費においてコストダウンの成果が見られ、特に設計・建設業務に関する提案において評価を得た。

C グループの提案は設計・建設業務において、評価を得た。

A グループの提案は、全体的に多くの評価を得ており、特に事業運営業務については、細部に亘って実効性のある提案があった。また、学校給食サービスの水準向上、良好な衛生管理体制の構築、環境問題への対応等を、安定的かつ継続的に実施することが期待できる提案と判断した。

この結果、A グループによる提案を全会一致により、最優秀提案として選定するに至った。

今後、市の落札者決定を経て事業契約を締結のうえ事業を展開していくこととなるが、A グループに対しては、公共サービスのさらなる向上のため、以下の諸点に努めるよう当委員会として期待する。

給食が学校教育の一環を担うことに留意すること。

特に衛生面については、常に最大限かつ細心の注意を払うこと。

公共サービスを提供する主体として、ふさわしい姿勢を堅持すること。

良好な官民パートナーシップの形成について、市とともに努力すること。

平成１５年１０月６日

千葉市 P F I 事業審査委員会

委員長 宮 脇 淳